

J R 鹿 児 島 本 線 等 熊 本 駅 付 近 連 続 立 体 交 差 事 業

事 業 誌

令 和 2 年 (2020年) 3 月

熊 本 県
熊 本 市
九 州 旅 客 鉄 道 株 式 会 社
独 立 行 政 法 人 鉄 道 建 設 ・ 運 輸 施 設 整 備 支 援 機 構

ご挨拶

熊本県知事

蒲島 郁夫



J R鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業は、九州新幹線の全線開通という千載一遇の好機に、熊本駅周辺地域の交通の円滑化と都市機能の充実を図り、21世紀の熊本をけん引する新たなまちづくりを目指して計画されました。

この平成最大の大型プロジェクトは、平成7年に構想に着手し、国、県、市、J R九州の協力と連携のもと、駅周辺整備の関連事業と一体となって推進して参りました。途中、平成28年4月には、熊本地震が発生するなど、完了までの20数年に及ぶ長い道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

それだけに、平成31年3月、本事業が熊本地震からの復旧・復興を力強く後押しするかたちで、無事に完了を迎えることができたことを、本当に嬉しく思います。

長期間にわたり事業の推進に御協力をいただいた地域住民の皆様、着実な工事の施工に御尽力をいただいた工事関係者の皆様、そして地元経済界をはじめ、計画の実現にお力添えをいただいた全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

今、新しい街並みへと生まれ変わってゆく熊本駅周辺には、創造的復興のエネルギーが満ち溢れています。その中心には、世界的建築家の安藤忠雄先生によってデザイン設計された新しい熊本駅が、熊本の陸の玄関口にふさわしい、堂々たる風格で存在感を示しています。

熊本城の石垣の特徴である「武者返し」の反りを連想させる外壁や県産木材を使用した上屋は、熊本らしい質実剛健な強さと、緑豊かな自然が見事に表現され、県民の誇りとして末永く親しまれていくと確信しています。

また、これから熊本市によって整備が進められる熊本駅白川口駅前広場は、世界的建築家である西沢立衛先生のデザイン設計によって、「熊本に育まれた文化に根ざした都市空間」を基本テーマとして進められており、令和3年春に新しい姿を現します。更に時を同じくして、商業施設が充実したJ R九州の熊本駅ビルの開業が予定されています。これらの整備が完了することで、熊本駅の交通拠点性と周辺の都市機能の魅力が飛躍的に高まることが期待されます。

県としては、新たに生まれ変わり、大きく発展する熊本の陸の玄関口が、その機能と魅力を存分に発揮し、熊本県全体の浮揚に貢献していけるよう、今後とも、熊本市、J R九州としっかりと連携し、活力あるふるさとの未来を創造して参ります。

あらためて、本事業の推進に御協力をいただいた全ての皆様に感謝申し上げますとともに、引き続き、温かい御支援、御協力をお願い申し上げ、事業誌発刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。

令和2年（2020年）3月

ご挨拶

熊本市長

大西 一史



J R鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業（以下、連立事業）の完了を記念した事業誌の発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

まずもって、本事業に格別のご理解とご協力いただきました沿線地域住民の皆様方、並びに関係者の皆様方に、心から感謝を申し上げます。

本市では、踏切による交通渋滞の発生や鉄道による東西市街地の分断に伴う西部地区の発展の遅れが大きな課題となっておりました。

そこで、これらの課題を解決するため、九州新幹線の建設を機に、平成14年3月、鹿児島本線約6 km及び豊肥本線約1 kmにおいて連立事業に着手しました。そして、平成30年3月、構想段階から20数年を超える歳月を経て、念願であった全線高架化が完了したことを誠に感慨深く感じております。

連立事業の実施により、15箇所の踏切が除去され、都市交通の円滑化が図られるとともに、新たに生み出された高架下空間などのストック効果の活用により、鉄道沿線地域における活性化が進むなど、すでに本事業の効果が顕在化してきております。今後、連立事業に合わせて実施している地域の骨格となる街路や、地域の生活道路となる側道、交差道路の整備により、東西市街地の一体化による賑わいの創出につながるものと考えております。

また、「熊本の陸の玄関口」である熊本駅周辺地区では、国・県・市・J R九州が協力しながら、拠点整備に取り組んできました。

本市では、熊本駅東側の「熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業」や、西側の「熊本駅西土地区画整理事業」に代表されるまちづくりを進めてきたところです。平成24年4月の政令指定都市移行後は、熊本駅白川口駅前広場の整備や熊本駅周辺街路の整備が本市の施行となり、基盤整備とまちづくりを連動させた、熊本駅周辺の賑わいの創出、魅力の向上に取り組んでいるところです。

2020年度中の完成を目指して整備を進めている熊本駅白川口駅前広場については、広域交通拠点として、公共交通機関の乗り換え利便性の向上を図るとともに、広場空間では憩い、賑わいを演出できるような整備を進めてまいります。さらには、熊本地震の経験を活かし、災害時に、避難場所やボランティアセンターなどの防災拠点として場面転換し、利活用できるように整備を進めているところです。

この駅前広場の完成予定である2020年度には、J R九州による、新たな熊本駅ビルや駅広北側のオフィスビルも開業予定であり、官民一体となって、熊本駅周辺の賑わいの創出、魅力の向上に努め、熊本地震からの復旧・復興を加速させてまいりたいと考えております。

結びに、改めまして本事業にご協力とご尽力を賜りました地域・地権者の皆様方や関係企業の皆様方に心から深く感謝を申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和2年（2020年）3月

ご挨拶

九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長執行役員

青柳 俊彦



JR鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業は、平成14年の事業認可および基本協定締結以来、平成27年3月の上熊本駅を含む鹿児島本線約4km区間の先行高架化、平成30年3月の熊本駅を含む全線高架化を経て、平成31年3月には関係者のみなさまと新しい熊本駅舎の完成を祝うことができ非常にうれしく思います。これまでの間、大変御尽力いただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構さま、熊本県さま、熊本市さまをはじめ、地域のみなさま、工事関係者のみなさまに対しまして、心より感謝と御礼を申し上げます。

今回の一連の事業によって、鹿児島本線約6km、豊肥本線約1kmが高架化され、15箇所の踏切が廃止されました。熊本駅を中心とした地域交通の利便性向上はもとより、踏切廃止による安全性向上、交通渋滞の緩和による地域の一体化など、今回の事業が熊本駅周辺のますますの発展に寄与するものであると私共も確信しているところでございます。

さて、本事業は全国的にも極めて稀な、平成14年認可の九州新幹線（博多・新八代間）建設事業と一体となって進められたという特徴があります。特に新幹線高架橋の下に建設した在来線の仮線においては、双方の事業協力といった意味において象徴的なものでありました。苦勞した点としましては、絶対に在来線の列車が新幹線の高架柱を損傷させないため、踏切障害事故等に備え脱線防止ガードの設置などの安全対策を十分に検討し実施したことが挙げられます。

ここで、新しく完成しました2つの駅舎についてご紹介させていただきます。まず、先行開業いたしました上熊本駅でございます。明治24年に九州鉄道の池田駅として開業し、明治29年には旧制第五高に赴任した夏目漱石が降り立った場所としても知られております。本事業で整備した駅舎が三代目であり、先代の二代目駅舎は建築的な評価の高さから駅舎の一部を熊本市交通局の上熊本駅前駅の一部として移築され、現在も現役で活躍しております。次に、熊本駅は現在、九州新幹線、鹿児島本線、豊肥本線により、九州内外から多くのお客さまをお迎えする県都のターミナル駅ですが、古くは上熊本駅と同時期に九州鉄道の春日駅として開業し、今回整備された駅舎で四代目となり、世界的建築家の安藤忠雄先生によるデザインで、熊本城の武者返しのファサード、プラットホーム上家には熊本県産木材の使用により、強く美しい威風を表現し、熊本らしい、熊本の玄関口としてふさわしい駅に仕上がっていると自負しております。

両駅ともこれまでの駅に比べ、快適にご利用頂けるように様々な設備を設けております。地域のシンボルとして、今回完成しました2つの駅舎を末永くご愛顧をお願い致します。

今後は、弊社としましても輸送サービスの充実はもとより、上熊本駅の「えきマチ1丁目」や熊本駅の「肥後よかモン市場」は勿論のこと、2020年開業目標の熊本駅ビル（仮称）などの開発を通じて、地域のみなさまとともに活気あふれる駅周辺のまちづくりに取り組んでいく所存でございますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたしまして、JR鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業誌刊行に際してのご挨拶とさせていただきます。

令和2年（2020年）3月

ご挨拶

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 九州新幹線建設局長
綿貫 正明



このたびJR鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業が完成するにあたり、その軌跡を集成した事業誌が発刊される運びとなりましたことは、誠に喜ばしく心からお慶び申し上げます。

本事業は、2002年3月の事業認可以来20数年の歳月を経て完成したところですが、この間、事業関係者並びに地元の皆様方には、なみなみならぬご苦労があったことと思います。

本事業と2011年3月に開業した九州新幹線（鹿児島ルート）との関わりについて振り返りますと、熊本駅周辺の南北約6km区間において両事業が同時に並行して行われる計画であったため、技術面、安全面で非常に難易度の高い工事となりました。

新幹線の本線工事に先立ってJR鹿児島本線の一次仮線切替え、ライフラインの移設、JR鹿児島本線を跨ぐ3本の陸橋（田崎・春日・段山）の撤去・切換えが必要であり、その後の新幹線工事も狭隘かつ住宅密集地での営業線近接工事となりましたが、熊本県、熊本市および九州旅客鉄道株式会社のご協力のもと、無事に完成させることができました。

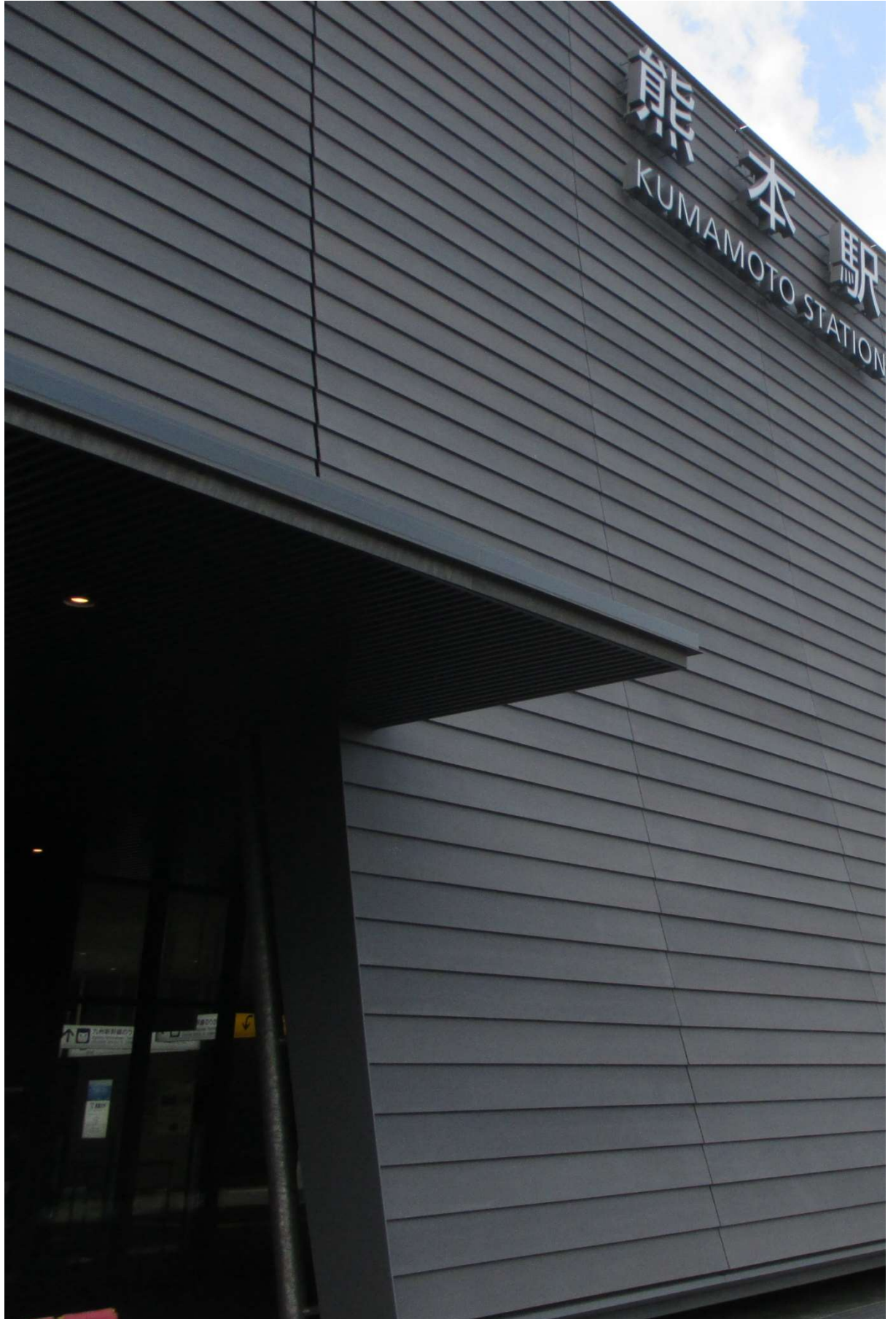
また、新幹線と在来線の高架橋のデザインや柱間隔を統一することで、圧迫感や煩雑感の緩和を図り、熊本駅周辺の街並みや景観に配慮した設計も取り入れました。

本事業により、熊本駅周辺の交通渋滞が解消されることはもとより、九州新幹線と在来線を含めた円滑で利便性の高い交通ネットワークが形成され、加えて商業施設の開発による相乗効果が後押しし、都心機能の活性化とにぎわいの創生が進み、地元の益々の発展に寄与するものと思っております。

ご当地熊本は、加藤清正公による治水・利水事業に始まり、街づくりが進められてきましたが、また一つ土木の歴史に残る大業が成し遂げられたものと感じております。

最後になりますが、本事業の完成にご尽力された関係者の皆様に敬意を表するとともに、新幹線建設事業との調整にご協力頂いた方々に改めて感謝申し上げます。事業誌刊行に際してのご挨拶といたします。

令和2年（2020年）3月















平成19年(2007年)11月



平成22年(2010年)10月



平成25年(2013年)7月

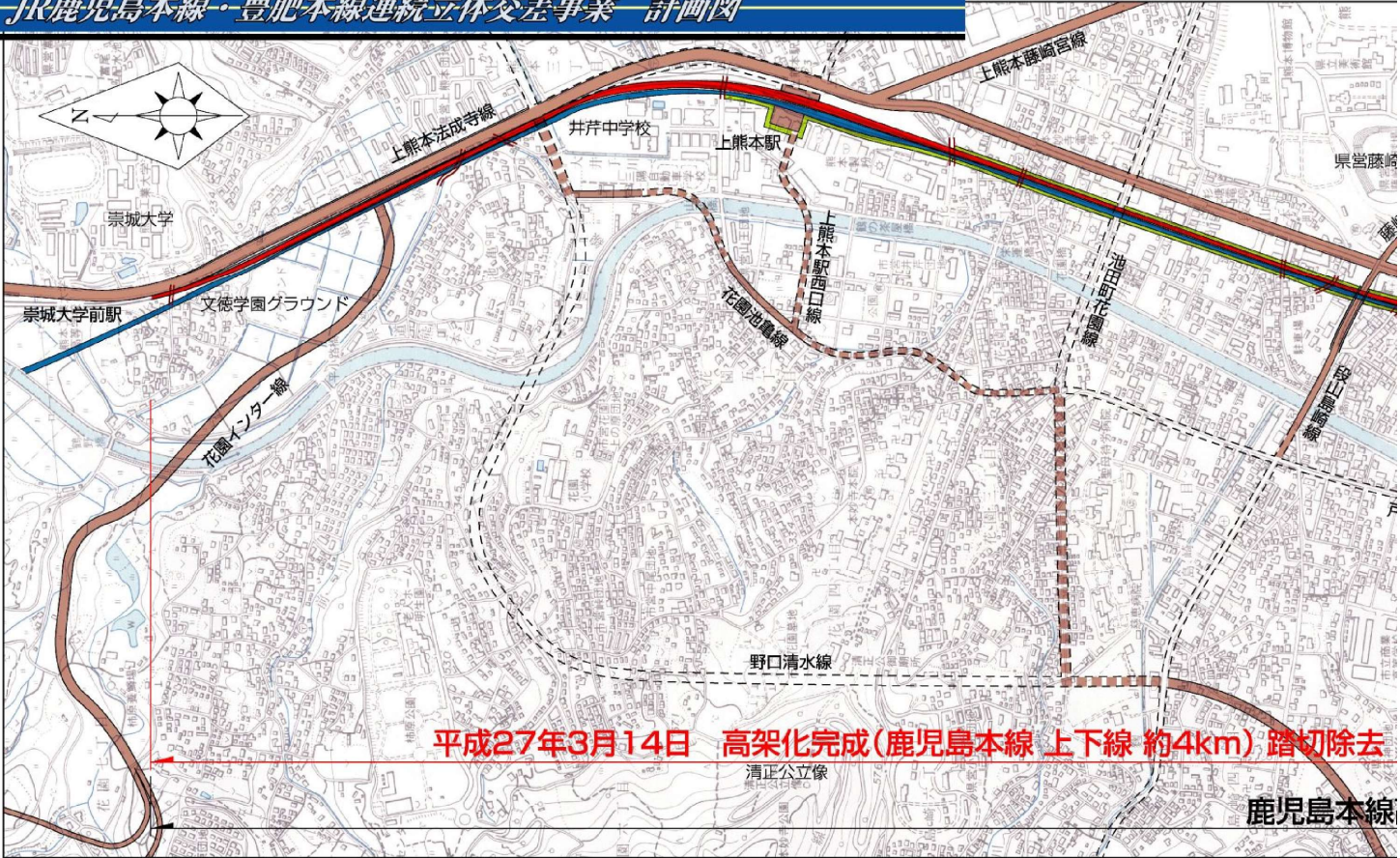


平成27年(2015年)4月

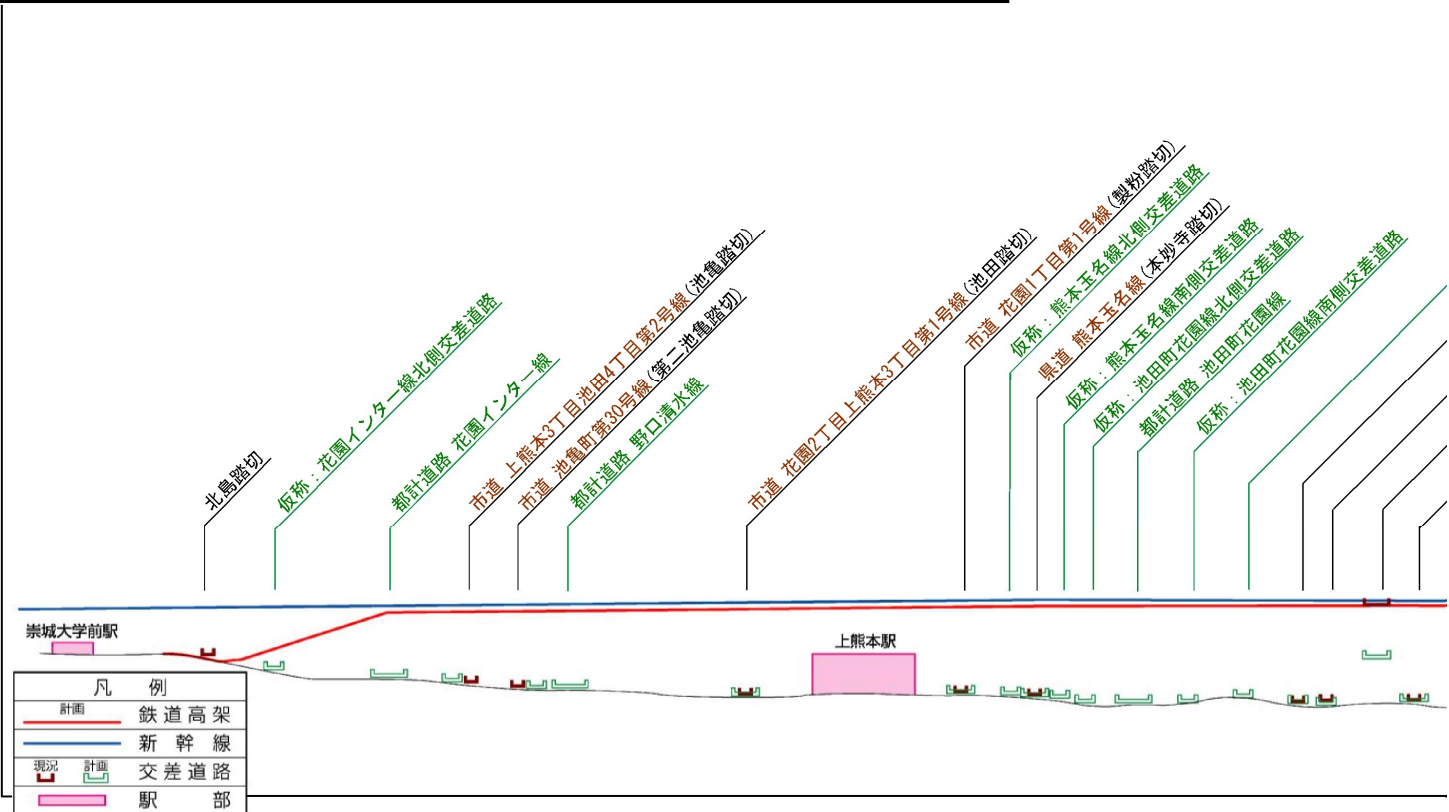


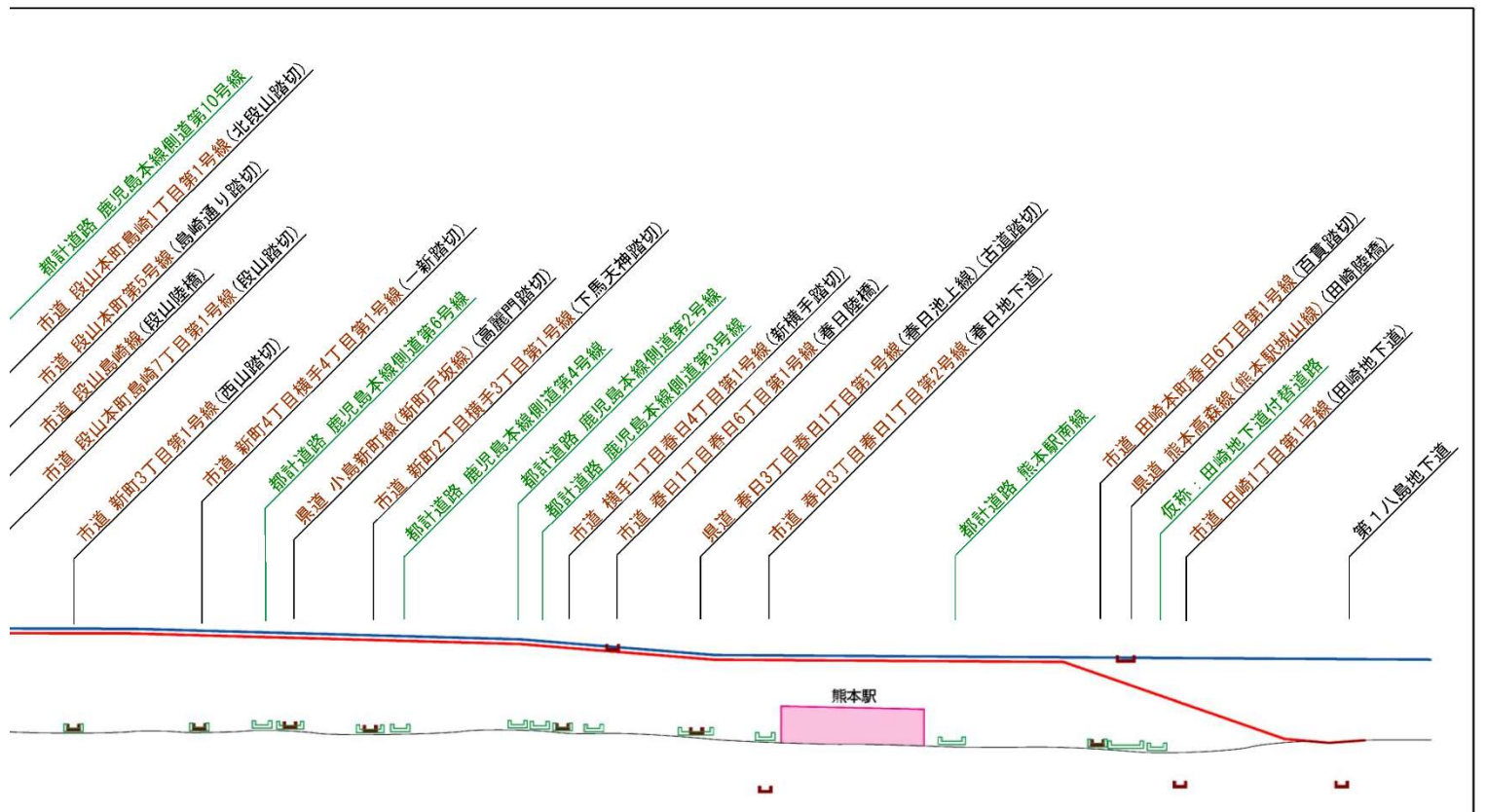


JR鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業 計画図



縦断面図

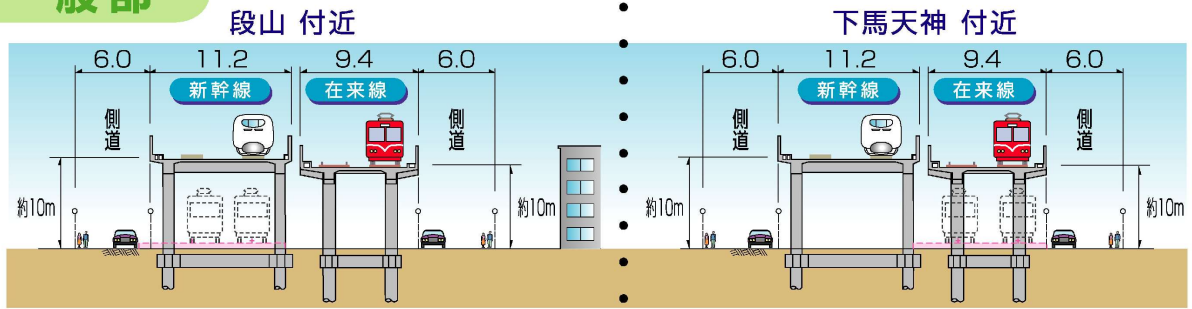




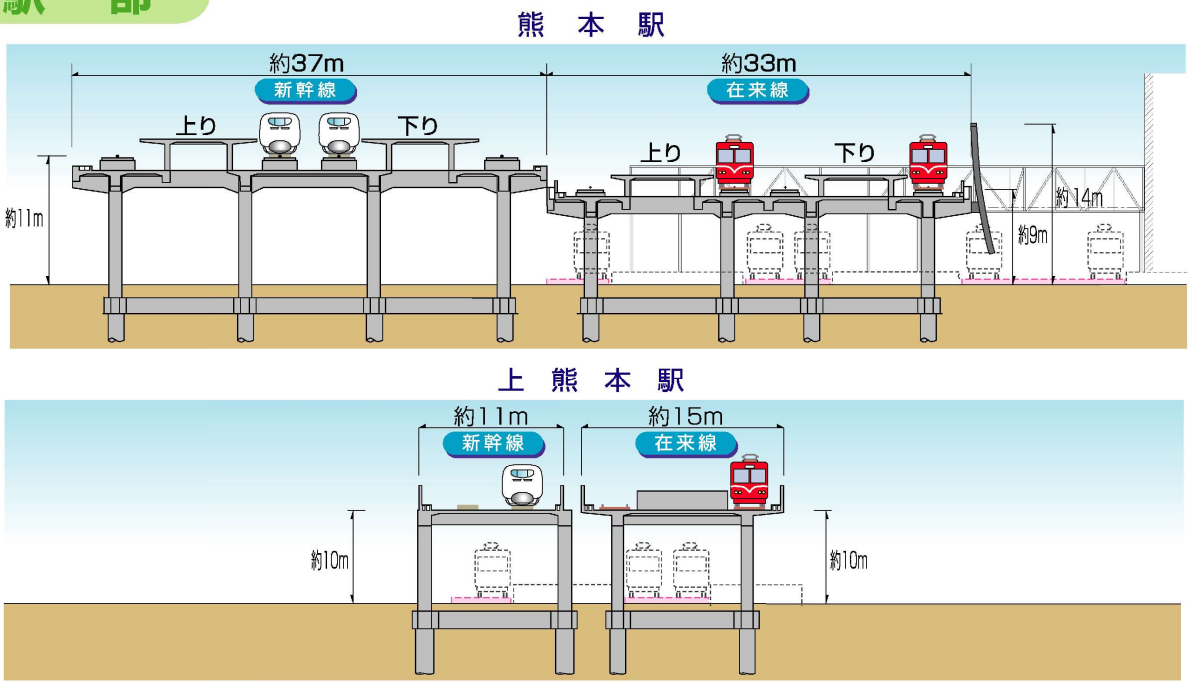
標準断面図

一般部

単位: m



駅 部



交差道路 (幹線道路)

